

豊田則成のプロフィール

【2026.04.01現在】

豊田則成(とよだ のりしげ)

滋賀県生まれ(58歳)

2001年 筑波大学大学院博士課程修了
博士(体育科学)

2003-2024 びわこ成蹊スポーツ大学(教授→副学長)

2024- 株式会社 アイアイ(顧問)

専攻:スポーツ心理学

認知行動コーチ(一般財団法人コーチング心理学協会認定)

2021-2024 JBAインテグリティ委員会委員

【メンタルサポート実績】

高等学校バスケットボールチーム(全国大会レベル)

新潟産業大学附属高校女子バスケットボール部

和歌山信愛高等学校女子バスケットボール部

群馬県立高崎商業高等学校女子バスケットボール部

四日市メリノール高等学校女子バスケットボール部

北陸学院高等学校男子バスケットボール部

Wリーグ

アイシンAW シャンソンVマジック トヨタ自動車アンテロープス

Vリーグプレミア

東レアローズ女子 女子日本代表選手

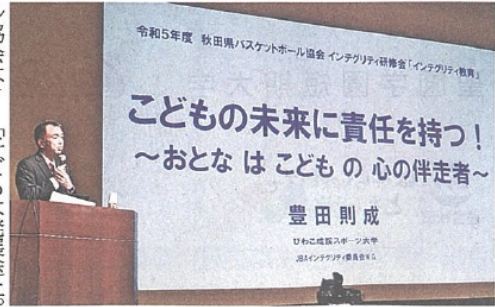
プロ野球

中日ドラゴンズ ピッチングスタッフ

□ 講演・講習・研修等の講師は500件を超えます。



県バス協、秋田市で研修会 愛情持って触れ合って U12指導者や保護者対象



スポーツ現場での子どもとの接し方について語る豊田氏

県バスケットボール協会は9日、秋田市の秋田テルサでU12（12歳以下）チームの指導者や保護者を対象に「インテグリティ（高潔性）教育」をテーマにした研修会を開いた。日本バスケットボール協会インテグリティ委員会の豊田則成氏（びわこ成蹊スポーツ大教授）が講師として登壇し「愛情を持って触れ合って」と呼びかけた。

266人が参加し、子どもと接する上で心がけることを学んだ。昨年は日本でワールドカップ（W杯）が開催され、男女ともパリ五輪出場が決まり、バスケットボールが注目を集めている。その一方で指導現場で根付いていた暴言、暴力が問題と認識され、世界では「日本スポーツ界では虐待が行われている」と広まっているという。

豊田氏によると、子どもがスポーツに取り組むのが良いとされるのは、勝つためでも礼儀を学ぶためでもない。好きなことを主体的に選んで力を磨くし、自分らしさをこの先どう生きていきたいかを見つける礎になるからだという。

「子どもは発達途上。大人を小さくした存在ではない。たまたま、できないのは当たり前。暴言、暴力で傷ついたら治らない」。12歳までの児童期は宙を舞うボールの動きを予測したり、コーチの言うことを聞き分けたりする体の機能は未完成と説明した。「それでも実際に言うことを聞いて動かさずにいる子が多い。本当に優れている」

指導では目を合わせて話したり、ハイタッチしたり、感謝を伝えたりと愛情を持って触れ合うことが重要だと強調。誰の子であろうと大人全員で子どもを育てる意識の下、子どもが安心して挑戦も失敗もできる環境づくりをすることが必要だとした。「徹底的に褒め、甘やかして、調子に乗らせてあげて、それが子どもの成長につながる」

指導に迷ったときは「コミュニケーションの存在が大事になる」という。一人一人を理解するのには時間がかかる。「普段から指導者や保護者同士が悩みを共有し、話し合いを続けるのも必要」と語った。

（豊橋幸恵）

技術より心の支援を バスケットU12指導者の研修会

仙台 仙

バスケットボールで12歳以下の子どもを教える指導者の研修会が21日、仙台市青葉区の東北大青葉山コモンズであった。県内のスポーツ少年団の指導者ら200人が参加し、子どものやる気を引き出す指導法を学んだ。

県バスケットボール協会が主催し、スポーツ選手の精神面の支援に関わるむねこ成蹊スポーツ大の豊田則成教授（スポーツ心理学）が講師を務めた。

12歳以下の子どもは「百やかしても良い時期」とし「ありったけの愛情で包み込んでほしい」と説明。参加者同士でハイタッチやハグを行い、スキンシップや目を見て褒める方法を伝えた。

指導者の心得として、技術指導より心の支援を重視することの重要性を説いた。「暴言暴力ゼロを徹底から達成すれば日本が変わる」と呼びかけた。

研修会は年1回開催しており、県バスケットボール協会の奥田昌樹部会長は「研修会を積み重ねることで子どもたちの挑戦を支えたい」と話した。

東北U12部会長会議は、プレーを楽しむことを目的に勝敗や順位を決めない大会にも取り組む。8月には白石市で開き、東北6県が



豊田教授が子どもへの気を引き出す指導法を学んだ研修会

子どもの可能性を広げて

新春スポーツ豊田則成さんが講演
市バス協 上

一般財団法人上越市スポーツ協会は24日、同市西城町のデュー・セレンで新春スポーツ講演を開いた。

講師はスポーツ陣営式会社アドバイザー、学スポーツメンタルサポーターを専門とする豊田則成さん（58）株

講演する豊田さん。これまでの経験をもとに子どもたちへの指導を熱く語った



講演はスポーツ陣営式会社アドバイザー、学スポーツメンタルサポーターを専門とする豊田則成さん（58）株

「こが前提の世の中に変わったと指摘し、「子どもたちにとって肌のぬくもりという絶大な愛情の伝達方式を忘れないから言う触れられないから言うしかない。あれ駄目、これ駄目。駄目といふ量をいかに減らす量をお願いしたい」と暴力や暴言がなくなる背景を示し、指導者に要望した。

また、ゲームについても「百書あつて利な」に「ボタン一つでハイパー、スーパーマンになれるのはおかしな話。子どもたちの脳が壊されていく。スポーツで子どもたちが健全に成長できるように」と話し、子どもたちの健全育成に努めている。

あるオリビック金メダリストの言葉「自分は世界一失敗をしていない。ほかの選手よりも失敗しているから金メダルを取ったんです。絶対に、絶対に、絶対に失敗しても支えられたい」と、大人が成功体験を言わないように、ミスしたことが多きようにサポートを」と提言した。

会場での質疑応答では指導者から「子どもたちの気持ちの壁の上げ方や言葉かけは」との問いに、「子どもたちに対して絶対的横に振らない、いいねを思うとちも返してやること。大人が成功体験を言わないように、ミスしたことが多きようにサポートを」と答えた。